



[評者]

宮本 享

京都大学医学部附属病院長

脳卒中データバンク 2021

国循脳卒中データバンク 2021

編集委員会 編集

●AB判 頁200 2021年3月

定価：5,500円(本体5,000円+税10%)

[ISBN978-4-521-74885-6] 中山書店刊



「脳卒中データバンク 2021」には、1999年に研究開始された日本脳卒中データバンクに、日本全国の130を超える施設から登録され蓄積された約17万例の急性期脳卒中の臨床情報解析が掲載されている。

本書の第1部には、日本脳卒中データバンクの概要とデータ分析が記載されている。まず、脳卒中に対する医療政策を行うにあたって、本邦における脳卒中のデータベースがないことが大きな問題であることに20年以上前に注目し、本事業を立ち上げられた小林祥泰先生をはじめとする先達の慧眼に深甚なる敬意を表したい。標準化された診断名と評価尺度に基づいて登録された精度の高いデータに基づく分析であり、経年変化などの分析は本邦における脳卒中の変遷を示す貴重なデータと考えられる。

つづいて第2部では、疾患や病態、治療法その他のテーマごとに、日本脳卒中データバンクに登録された膨大な症例をもとに分析と解説がなされている。各項目の冒頭には、わかりやすくサマリーが箇条書きに掲載されている。

さいごに第3部では、日本脳卒中データバ

ンクを用いた研究論文についての解説がなされており、本書は「本邦における最近20年間の脳卒中医療のとりまとめ」といってよい内容となっている。豊田一則先生を中心とした「国循脳卒中データバンク 2021 編集委員会」の皆様のご尽力に感謝したい。

2018年12月に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」いわゆる脳卒中・循環器病対策基本法が成立し、循環器病対策推進基本計画が策定され、悉皆性がある脳卒中・循環器病の情報をどのように収集していくかということが、現在検討されている。多数の治療施設が全国に分散していて均てん化が求められ、急性期医療であり、地域連携で転院をしていく脳卒中の登録には、治療施設が集約化されており、データ登録に時間的余裕がある「がん登録」とは異なる課題がある。今後、循環器病対策推進基本計画に基づく登録事業を成功させるうえで、日本脳卒中データバンクのこれまでのノウハウは大変貴重な経験であり、それをまとめた本書を、本邦における脳卒中医療従事者には是非精読していただきたい。